

総務市民文教委員会市内視察報告書

市内視察における調査結果について、下記のとおり報告します。

平成27年3月26日

光市議会議長 中村賢道様

光市総務市民文教委員会
委員長 中本 和行

副委員長 大田 敏司

委 員 木村 信秀（副議長）

委 員 笹井 琢

委 員 田中 陽三

委 員 西村 憲治

委 員 林 節子

委 員 森重 明美

委 員 四浦 順一郎

随 行 高木真由美（事務局）

記

- 1 研修年月日 平成27年3月19日(木) 10時～12時40分
- 2 視 察 先 (1) 光市立浅江小学校
(2) 光市立室積小学校
(3) 光市立学校給食センター
- 3 調査結果等 別紙のとおり（資料含む）

総務市民文教委員会行政視察調査結果

○光市立浅江小学校

1 日時 平成 27 年 3 月 19 日（木） 10：10～10：40

2 調査事項
学校耐震化等について

3 内容

平成 26 年度末に耐震化率が 100%になるなど、光市立の学校耐震化の現状や浅江小学校の耐震化の詳細な工事概要の説明がありました。

その後、浅江小学校における耐震化工事現場の完了を視察しました。





○光市立室積小学校

1 日時 平成 27 年 3 月 19 日（木） 10：55～11：15

2 調査事項
学校耐震化及びトイレ洋式化等について

3 内容
室積小学校の耐震化について、工事完了現場や、老朽化したトイレの洋式化の完了現場を視察しました。



○光市立学校給食センター

1 日時 平成 27 年 3 月 19 日（木） 11：30～12：30

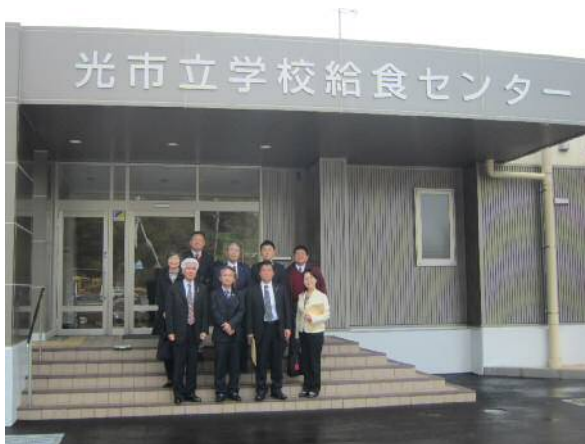
2 調査事項

センター稼動開始後の運営と目指すべき給食について

3 内容

給食センター稼動後、半年が経過しており、稼動後の運営状況を確認するとともに、地場産給食の日である 19 日に、地元産食材による給食を試食しました。

また、栄養士の方から、様々な改善点をお聞きしました。





◆主な質疑（学校給食センター）

問：除去食は何食くらい作られているか。

答：18食ですが、新入学生で5人程度申し込みがあり、合計23名ぐらいになると思う。

問：子ども達の味覚を育てるために、酢の物をあえるなど、残食・残菜が多く出るにもかかわらず、出し続けたいと言われたが、残食について、どのように取り組まれているか。

答：どういうものが多く残っているか、少ないかを見ている。野菜料理のときは、残食が多いが、お肉やツナ等を入れることで、残食が少しずつ減っており、このように、野菜サラダにツナを入れることで、食べてもらおうという取り組みなどを行っている。

問：うどんの提供が給食の場合、なかなか難しいが、どのように扱うのか。

答：配缶されてから食べるまで少し時間があるため、少しでも汁が残るよう、うどんのボイルだけ別にし、その後、材料と混ぜ合わせるなど、できる工夫をしている。

＜委員所感＞

所 感（中本 和行）

＜浅江小・室積小 耐震化＞

耐震化について、視察致しましたので報告致します。

学校施設の耐震化については、国の耐震化基本的な考え方に基づいて、平成19年3月、「光市公立学校施設耐震化推進計画」策定し、平成33年までの15年間計画でしたが、平成26年度末までの7年間計画にスピードアップ。災害時の避難場所に指定されている体育館を優先して校舎の耐震整備に入り、平成26度末で100%達成、耐震化率県下1位です。

学校施設は、多くの児童生徒が一日の大半を学校で過ごす。学習、生活の場で、安全な環境を確保する。児童生徒の人命、また災害発生時には地域住民の避難場所としての役割もあります。

子供たちは、元気よく笑顔で楽しく勉強しており私たちも安心致しました。

＜室積小学校 トイレ洋式化＞

トイレ洋式化について、視察致しましたので報告致します。

学校施設が老朽化して、耐震化が優先されトイレ改善が進まない学校が多数、家庭のトイレが見違えるように綺麗になる中、学校の環境整備が遅れています

今回トイレ洋式化により家庭環境に近づき子供たちの健康を守ることに繋がる。明るく楽しいトイレ、そしてゆったりとしたトイレ室に子供達は喜んでいでしょう。市内小中の環境整備も年次計画もって整備することが重要である。

＜学校給食センター＞

光、大和学校給食センターの老朽化に伴い、新しい給食施設は、センター方式に集約することに決定し、昨年の9月から配送開始しました。

ドライ方式の導入など最新設備です。

学校給食は、適切な栄養を取り健康増進、学校生活を豊かにする。食育の重要性、アレルギー児童に対する給食、全国でも珍しい製パン設備の導入など、子供達に美味しく食べてもらう。安全・安心な学校給食を提供する施設には改めて感動しました。所長他、従事者の熱心に取り組む姿勢に安心致しました。美味しい給食の試食、焼き立てのパンも食べて満足した視察でした。

所 感（大田 敏司）

＜光市浅江小学校・室積小学校＞

学校耐震化工事の完了について

学校耐震化工事の完了について、浅江小学校・室積小学校を行政視察しました。

生徒の安全・安心のため、校舎耐震化は、必要不可欠の問題であることから、今後の生徒の安全・安心のため、どのような校舎耐震工事をされておられるのか、また、耐震化の完了具合を確認しました。

まず、生徒たちの為、空間を広く取っておられるとともに、工事の後、生徒たちが行動するのにいかに邪魔をしていないかに配慮がなされていました。

また、業者の方や行政の方々が、いかに苦労をされて、工事を行なわれたのか、たとえば、柱間にブレースを入れておられたのですが、H鋼の下端には、生徒たちや、保護者の方々の通行の際に、いかに広い空間を取られたのか、また、頭や体などに当たって、衝撃が緩和されるよう、ゴム製の緩衝剤などを設置され、十分な安全対策が取られている状況などを確認しました。

今後とも安全対策には十分な配慮をお願いします。

室積小学校便所改修工事について

洋式便所の改修では、男子・女子の区別を分かりやすくする為、また見た感じを柔らかくする為、中間色を使用され、見た目が大変温かく見えるようにされておられました。

また、手洗いも小学生が使用されるので、使いやすい様に工夫もなされておりました。

ただ、身障者対策は、もう少しの配慮があってもいいのではなかったかと感じました。

＜給食センターについて＞

給食センターで昼食を試食させていただきました。業務開始をされ、半年が過ぎ、栄養士さんも様々な研究をされ、揚げパンも給食に出され、生徒たちには、大変好評を得たと話され、好印象を受けました。

私もおいしく給食をいただきました。今後とも調査研究をされ続けください。

所 感（木村 信秀）

浅江小学校耐震化等について

当初、平成19年から平成33年まで15年計画で実施しようとしていた「光市公立学校耐震化推進計画」であったが、様々な視点からの見直しの結果、従来計画より7年の短縮を実施した。このことから、平成26年度において全ての耐震化推進計画が終了し、I s 値が0.7以上の補強（震度6程度の地震に耐えられる）が終わり、その実態を現地にて視察するとともに詳細な説明により確認できたことは市民として誠に喜ばしく感じられた。

また、これに先立ち「光市公立学校施設耐震化実施計画」において、平成22年までに体育館の耐震化を終えたことも計画通りに実行されており、非常事態において、真っ先に避難所となる施設であることより安心に最も繋がっていることも実感できた。

室積小学校耐震化・トイレ洋式化等について

校舎や付随設備の施工が誠に古く、使用し辛いことによるトイレ洋式化による環境整備及び安全の確保の視点による耐震化がなされていることを現地視察により確認できた。今後とも教育施設の安全確保や環境整備に力点を置かれるよう注視していきたい。また、今後実施予定の非構造物の耐震についても確認し、市民の負託に応える努力を重ねていくことをあらためて考えさせられた。

学校給食センター

新たなセンターが稼働して半年が過ぎ、運営状況の確認をさせていただいた。まず、食育の視点と地産地消の視点、またアレルギー対応や新たな取り組みであるパンの自家製造の実態を見せていただいた。今後とも、児童・生徒にとって楽しみな給食と安全な給食、栄養面でバランスの摂れた給食を目指して努力を重ねていただくようお願いしたい。

所 感（笹井 琢）

浅江小学校

耐震化補強のため連結した校舎に隙間を空ける改修は、説明がないと見過ごしてしまう内容であった。

体育館も見学したが、市内で唯一生徒数が増加している浅江小学校の体育館としては、相当狭く感じる。

駐車場なども不足しているようだ。隣接地である旧学校給食センター跡地の活用が考えられる。

室積小学校

トイレのリニューアルはよくできている。各学校に最低1カ所はこういったトイレが必要である。

しかし、それ以外のトイレは旧態依然のまま。昭和の香織のするトイレであった。特に校舎間にある屋外トイレは劣悪である

給食センター

給食の試食を行ったが、新センターで調理を始めたパンについては十分美味しい物であった。

パン焼き器については、導入コスト・ランニングコスト・食材費等の検証が必要である。決算審査時に確認していきたい。

また、鶏肉の光ソース（梅肉味）の味付けは絶品であった。回転釜で煮込んで作成しているとのことだが、レシピを教えて欲しい味である。

スチームコンベクションで焼いていると思われる鶏肉についても、外はパリット、中はジューシーに焼けている。

今回の視察においては見ることはできなかったが、パン焼き器やスチームコンベクションの実物を確認したかった。

所 感（田中陽三）

耐震補強工事は、他市に先駆けて小・中学校の耐震化率100%を達成し、引き続き非構造部材の耐震改修工事にも取り組む予定であり、子供たちが安全・安心して学べる環境作りとして大いに評価できます。工事部のボルト等に細かい安全対策を施している点にも好感が持てました。しかし一点、構造物に明るい

色を取り入れて、明るく楽しい環境整備をするという視点がなかったのを残念に思いました。

トイレの洋式改修工事では、プライバシーが確保され明るく快適なトイレに改修されているのは非常に良かったが、一方で、現状のトイレがあまりにひどく、市内の小・中学校の早急なトイレ改修が必要であり、合併特例債の活用も見越しての早急な改修計画の必要性を求めていると思いました。

給食センターについては、なるべく地元の食材を使い一手間加えた美味しい給食を提供しようという姿勢が給食に現れており、それを可能にしているのが、新設備と栄養士をはじめとする職員の熱意であることが分かった。子供たちの声に対応したメニュー作りにも取り組んでおり今後も期待したい。

所 感（西村 憲治）

<浅江小学校について>

1. 耐震補強については、よくできていると理解しました。
2. 校舎のほころびが目立ち（外壁塗装・剥落・鉄骨のさび等）修理を必要とすると感じました。
3. トイレについて、児童が使うもの、教師が使うものの整備が不十分であると、現場にて指摘いたしました。
4. 非常口に荷物が積んであり整理が不十分とも感じました。
5. 1 階校舎北側の使っていない教室が倉庫になっていますが、段ボールなど突っ込まれた状態で整理が不十分と感じました。
6. 議員が視察に来た場合、現場教員の対応をお願いします。

<室積小学校について>

1. 耐震補強は、よくできていると感じました。
2. 校舎のほころびが目立ち（外壁塗装・剥落・鉄骨のさび等）修理を必要とすると感じました。
3. トイレに改修は、まずまずですが、改修時に洋式トイレには電気のコンセントを工事（室積はしてありました。）してください。後に洗浄器付き便座の対応が簡単です。
4. 他のトイレについて、児童が使うもの、教師が使うものの整備が不十分であると、現場にて指摘いたしました。
5. 玄関の耐震柱には、衝突防止、緩和の対策が必要です。

<給食センター>

1. 給食は、評価 9.5 点（最高に美味しい）です。
2. パンですが、児童・生徒に対する愛情を感じました。米粉 10%使用、もちもちで食べやすかったです。ご努力心より敬意を表します。
3. 光ソース、さわやかでおいしかったです。鳥も程よく柔らかく、残さず頂きました。
4. ミネストローネは、さっぱり薄味ですが、具沢山で食材のうまみを味わいました。
5. 説明頂きました、「煮る・炒める・揚げる・焼く・蒸す・和える」を味わう

素敵な給食でした。施設の能力を十分活用し、素晴らしい給食を提供していただいていることに、感謝します。

6. -0.5 点の減点は、食事のマナーです。箸を中心に使うのならば、箸休めを使い日本人らしいお箸のマナー（ネットを参照）を躰て頂きたいものです。
7. もう一つは、職員の皆さんが給食を配膳する時のマナーです。研究をして、お客様をお迎えする方法を身に着けると、より給食が引き立つと思います。
職員の皆さん、丁寧な説明とご対応ありがとうございました。

所 感（林 節子）

最初に浅江小学校の耐震化の視察。

山口県では小中学校施設の耐震化の取り組みは平成19年から15カ年の計画であったが、光市においては8年間で工事が終了した。（7年短縮）

平成26年度県下第1位（100%）の耐震化率である。

なお、平成27年から小中学校の体育館、武道場の吊天井や照明器具などの非構造部材の耐震改修工事に取り組む方針である。

その中、浅江小学校はいち早く体育館の照明器具はしっかりと固定されていた。また、教室、体育館に全体耐震化の四角い太い鉄骨がガッチリとはめ込まれており安心した。2階の手すりや外壁の腐食は、今後平成27年度から年次的に取り組まれる。

次に室積小学校の耐震化、トイレ洋式化を視察。

玄関入口のひさは太い柱で耐震化され、浅江小学校同様、校舎に太い鉄骨がはめ込まれており耐震化が進んでいた。

だが、海に近く潮風にさらされることの多い校舎は腐食が見られる。

改修されたトイレは電球がLEDになっており、青色タイル（男子）オレンジ色タイル（女子）を用いて明るい雰囲気になっている。使用した人は自然と汚さないようにと配慮が有った。

最後に光学校給食センターを視察。

昨年（平成26年9月1日）供用開始の当施設は、市内小学校（11校）中学校（5校）全4,300食の給食が作られている。

特に「アレルギー除去食」「自家製パン」「地産地消」の食材を用いて、子どもたちの成長に合ったバランスの取れた献立に配慮されていた。

私達も試食させて頂いた際、冠梅園の梅ドレッシングの手作り感の発想に興味を引いた。日々、栄養バランスを考え見た目も食欲をそそるおいしい給食に努力されていることに敬意を表したい。

所 感（森重 明美）

市内公立小学校の耐震化及びトイレの洋式化について、予算執行の現状を視

察し現場の声、実情等を掌握する。

H19年の耐震化計画ではH33年度までの15年間計画であったが合併特例債他、負担軽減の支援策が講じられH26年度末で耐震化を要する校舎の耐震率は100%となり7年間で完了した。

浅江小では更なる安全課題に対して年次的に手を入れる箇所も現地視察できた。鉄骨のブレースの低い部分には、セーフティガードのクッション性保護材を施し子どもの安全性に配慮するなど現物から理解できる説明も多く大変参考になった。

室積小のトイレはかつての暗い・怖い・臭いというイメージが払拭され、洋式対応で明るく清潔な空間であり学校でトイレを我慢する子どもたちの健康上の問題も解決されそうである。

給食センターではスタッフ一同の「日本一おいしい給食を光市の子どもたちに」と言う工夫や配慮、意気込みが感じられた。

所 感（四浦 順一郎）

学校の耐震化工事

平成20年の中国四川省地震の被害から、法が改正されて耐震化工事に関して国庫補助が引き上げられた。光市では「光市公立学校施設耐震化実施計画」が策定され、まず体育館の耐震化を実施。平成26年度末には、昭和56年以前建築の光市小中学校32棟すべての耐震化工事が完了予定。

[感想]

- 1 光市小中学校耐震化工事は、県内トップの進捗であり、非常に評価できる。
- 2 浅江小学校の校舎の壁が落ちて、補修が充分でない箇所がいくつも見られた。室積小学校では、軒下の鉄筋が赤錆であった。その説明では「海が近く、潮風が影響して・・・」とあったが、ペンキ塗りを実施すれば赤錆は防げるのではないかと思った。それにしても、光市の教育予算比率は低すぎる。

学校給食センター

昨年8月オープンした新学校給食センターを視察し、その日の給食を試食した。従事者は、事務3、栄養士4、調理員40、配送員10人であり、配送先は市内小中学校16校で、3,800食。全国ではじめての給食センターでパン調理、冷凍食品に頼らない、地産地消や手作りに心がけるなどの説明を受けた。

[感想]

- 1 当日の献立は、キャロット(にんじん)パンや鶏肉の光ソースがけなどで、できたての食感を味わうことができた。光ソースは、梅ジャムや酒、しょうゆなどで作ったもの。
- 2 新年度の栄養士数について質問すると「現状の4人が保てるよう県に要請中」と答えられた。栄養士の人数は、おいしい、安全な、食育基本法に沿う給食づくりに決定的に影響するので、絶対に人数を減らすべきでない。
- 3 うどん給食について質問したが、難しそうだ。その実、3月分の19食献立表には、うどんの日は一日もなかったが、工夫はできないものか。